

九州芸術祭 文学カフェin鹿児島

入場無料

講師

第128回
芥川賞受賞作家

だいどう たまき
大道 珠貴さん



1

ミニ講演会

テーマ

言葉って...面白かる?

2

事前に応募された作品の中から4作品を
大道さんが講評します

来場者からのご質問にも大道さんがお答えします

日時

2023年
11月12日(日)
14:00~16:30(13:30開場)

会場

鹿児島県立図書館
第3研修室
鹿児島市城山町7番1号

※図書館の駐車場利用はできません。公共交通機関をご利用ください。

定員

70名

定員を超えたら抽選

申込方法

WEB・メール・官製はがきのいずれかでお申込みください。

●WEBでのお申込み



●メールでのお申込み / event@kyubunkyo.jp

●はがきでのお申込み / 〒810-0001 福岡市中央区天神1-4-1 西日本新聞会館10階
公益財団法人九州文化協会「文学カフェin鹿児島」係

・はがきの場合は、文面に ①氏名(ふりがな) ②電話番号 ③郵便番号とご住所 ④同伴者の有無(1名まで可)
⑤作品講評希望もしくは参加のみ希望のどちらかを明記してお申込みください。

・メールの場合は件名に「文学カフェin鹿児島」と明記し、メール本文にはがき同様①~⑤をご記入ください。

申込み、講評希望作品送付の締切: 10月10日(火)

講評希望の方は、お申込みの際に作品をメール添付、もしくは追って上記申込宛先にメール添付又は送付
ください。講評予定作品を10月末までに参加のみの方含め当選者全員に送付します。

講評希望の方へ

講評希望作品は原稿用紙30枚以内の短編小説、もしくはエッセー。(未発表、既発表は問わない)

作品原稿は返却しませんので、必要な方はコピーをとっておいてください。

講評作品は講評希望者の中から4作品を大道さんと事務局にて選出します。

講評作品はイニシャルにてご紹介します。

●主催: 公益財団法人九州文化協会・鹿児島県

●後援: 鹿児島県文化協会

■内容についてのお問合せ: 公益財団法人九州文化協会 ☎092-711-5586(平日10時~16時) E-mail: info@kyubunkyo.jp

※記載いただいた個人情報は、本講演会のご案内および必要事項の確認に利用させていただきます。



だいどう たまき
大道 珠貴さん

1966年福岡市生まれ。2000年、『裸』が第30回九州芸術祭文学賞を受賞して作家デビュー。同作で第123回芥川賞候補、03年『しょっぱいドライブ』で第128回芥川賞を受賞。05年『傷口にはウオッカ』で第15回Bunkamuraドゥマゴ文学賞受賞。日本文藝家協会編『ベスト・エッセイ2023』（光村図書）に、西日本新聞に掲載したエッセイ「おかしかねえ おかしかねえ」収録。20年秋まで神奈川県鎌倉市在住だったが、福岡で一人暮らしする母親が心配になり、福岡に一時滞在のつもりが、いまも居候中。

芥川賞への近道

九州芸術祭文学賞に応募しませんか

第54回(令和5年度)

九州芸術祭文学賞
作品(小説)募集

■応募期間/令和5年5月1日~8月31日(必着)

■最優秀作/賞金30万円及び「青木秀賞」20万円

■佳作/賞金7万円

■地区優秀作/賞金5万円

■地区次席/賞金2万円

アドバイザー

五木 寛之



最終選考委員

村田喜代子・小野 正嗣 他



九州を超えて行け!



■応募資格/九州各県・沖縄県在住者 ■応募作品/小説(未発表の作品1編、同人誌を含め既発表作品は不可) ■応募条件/400字詰め原稿用紙換算で55枚~60枚 ■原稿送り先/居住する県、政令指定都市の「九州芸術祭文学賞作品係」あて ■選考/①地区選考=九州各県、沖縄県、北九州市、福岡市、熊本市の計11地区で地区優秀作1編、次席1編を選ぶ。②最終選考=11地区の地区優秀作の中から最優秀作1編を選び、最終選考委員は村田喜代子・小野正嗣、「文藝春秋」編集長 他。 ■発表/地区優秀作・地区次席=令和5年11月上旬。最優秀作=令和6年1月下旬頃。令和6年3月に文学賞贈呈式。最優秀作、地区優秀作は「第54回九州芸術祭文学賞作品集」(令和6年3月刊行予定)に掲載。

最優秀作品は「文藝界」(文藝春秋社刊)4月号に掲載!

【お問い合わせ先】公益財団法人九州文化協会/福岡市中央区天神1-4-1 西日本新聞会館内 ☎092-711-5586 (平日10時~16時)

詳しい応募要項はホームページ

1970年に誕生した「九州芸術祭文学賞」(小説)は、公益財団法人九州文化協会が九州・沖縄各県、福岡・北九州・熊本
の3政令指定都市との共催で運営し、54回を数えます。

各地区選考、最終選考の二段階で審査を行い、最優秀作は『文藝界』(文藝春秋刊)に掲載されます。

中央の文壇の目が届きにくい地方の文学賞では異例のことで、第27回最優秀作『水滴』(目取真俊)はそのまま芥川賞に輝きました。

このほか、村田喜代子、又吉栄喜、大道珠貴の各氏ら芥川賞作家たちも、本賞受賞を足がかりに文壇デビューを果たしました。

第55回の応募は2024年5月1日にスタートします。

九州芸術祭文学賞から巣立った
芥川賞作家たち

第7回最優秀作「水中の声」村田喜代子

1987年「鍋の中」で芥川賞

第8回最優秀作

「ジョージが射殺した猪」又吉栄喜

1996年「豚の報い」で芥川賞

第27回最優秀作「水滴」目取真俊

1997年、同作で芥川賞

第30回最優秀作「裸」大道珠貴

同作で芥川賞候補 2003年「しょっぱいドライブ」で芥川賞

公益財団法人九州文化協会/〒810-0001 福岡市中央区天神1-4-1 西日本新聞会館内 ☎092-711-5586(平日10時~16時)

詳しい応募要項はホームページ